

マルチチャート 設定マニュアル

2019/12/26

第8編 ストラテジーのインポート、エクスポートの方法

マルチチャートに表示したいインジケータやストラテジーは、マルチチャートをインストールした際に、あらかじめ入っているものもありますが、それらを新たにご自身で構築した場合、あるいは、外部から取り込む場合（例えば、システムやインジケータをウェブサイトからダウンロードした場合）には、**PowerLanguage Editor**（パワーランゲージ・エディタ）を利用して導入・設定を行うことができます。

本編では、最初にストラテジーを **PowerLanguage Editor** に取り込む（インポートする）手順をご紹介します。

①インポートしたいストラテジーをコンピュータ上の適切な場所に保存します。

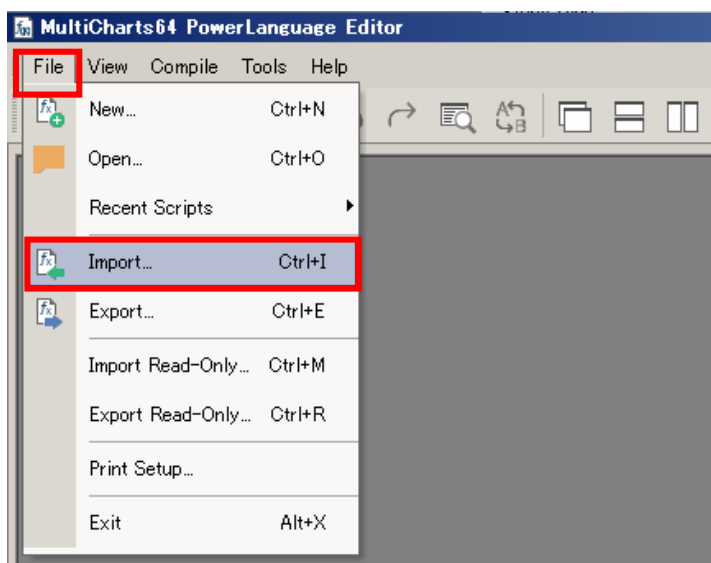
※本編でのご紹介はデスクトップ上に保存しております。また、取り込むストラテジーはドル円のデイトレードを行う下図の「!Present_USDJPY_Strategy」というストラテジーをサンプルとして利用しております。



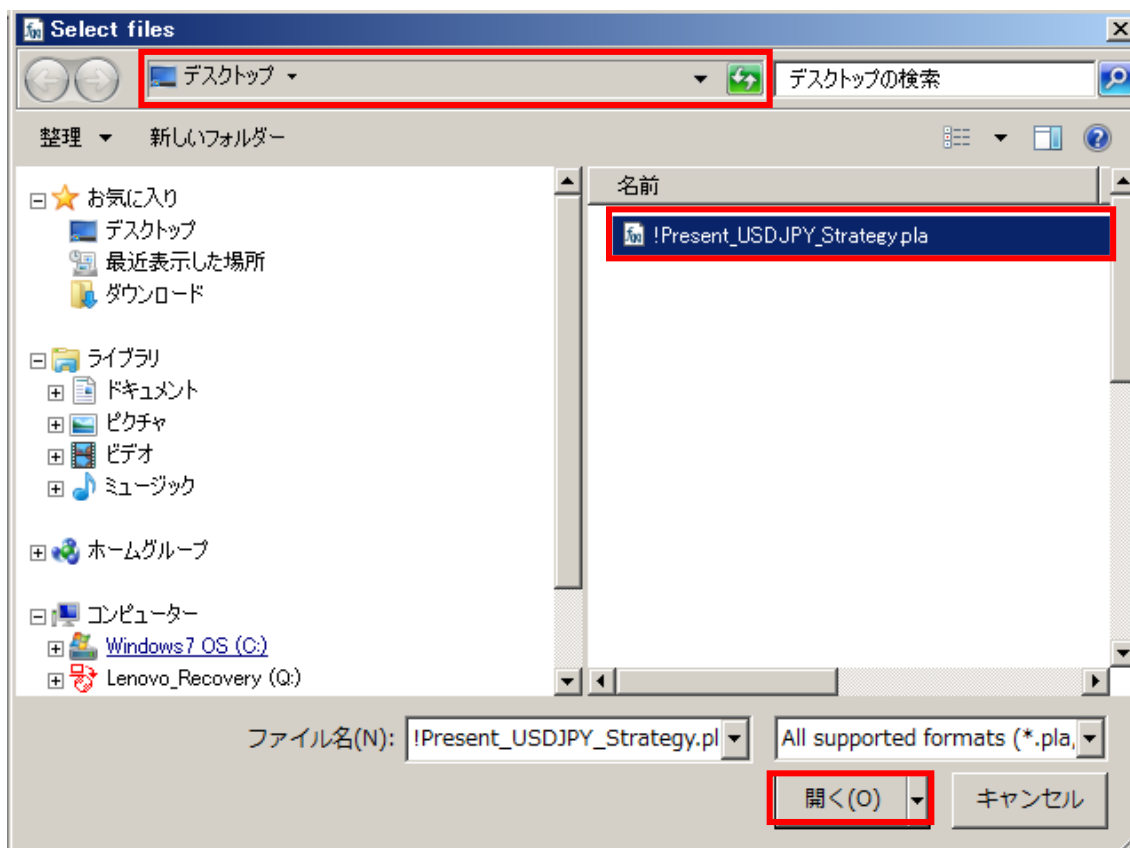
②PowerLanguage Editor を起動して下さい。



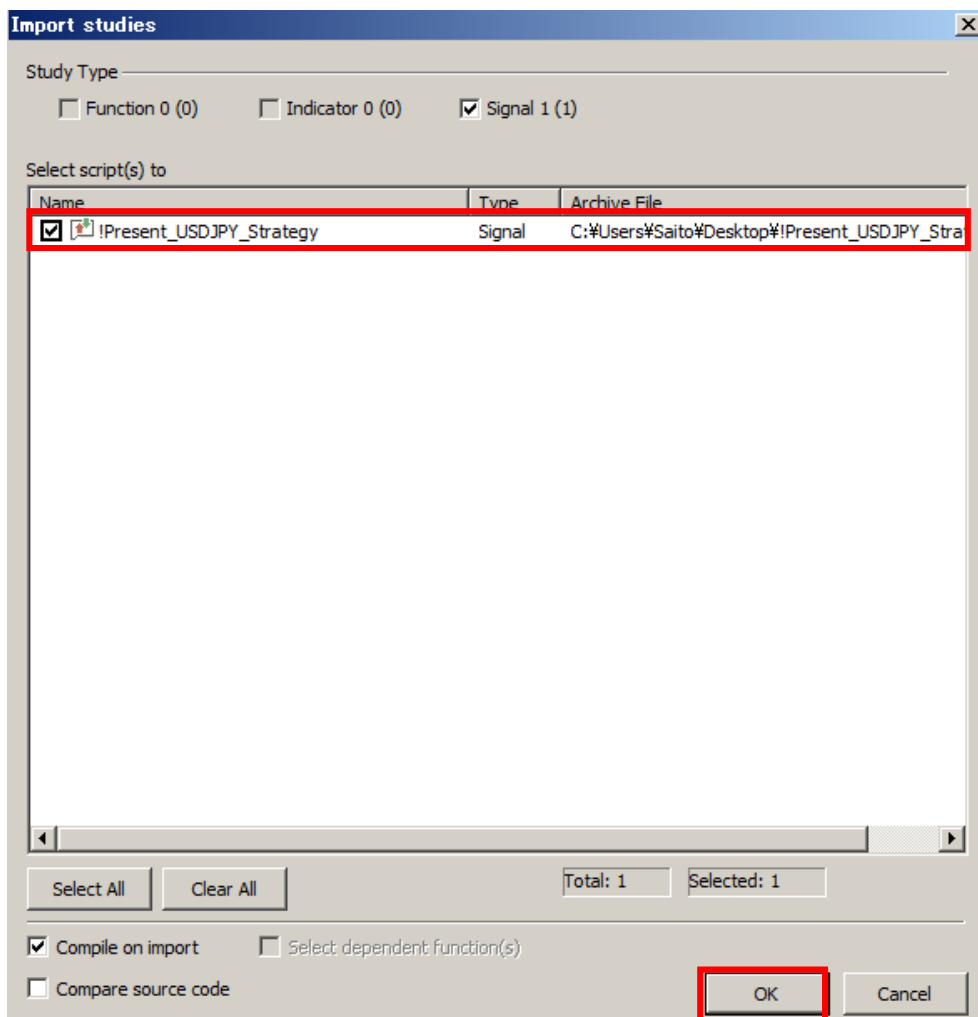
③PowerLanguage Editor を起動したら、File → Import の順にクリックします。



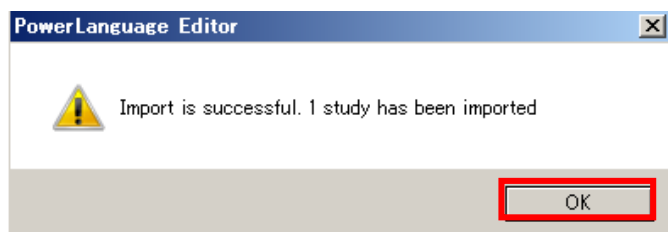
④デスクトップ上に置いた「!Present_USDJPY_Strategy」を選択し、「開く」をクリックします。



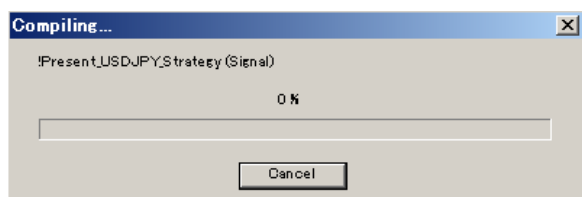
⑤インポートするストラテジーが表示されますので、OK をクリックします。



⑥正しくインポートされました。OK をクリックします。

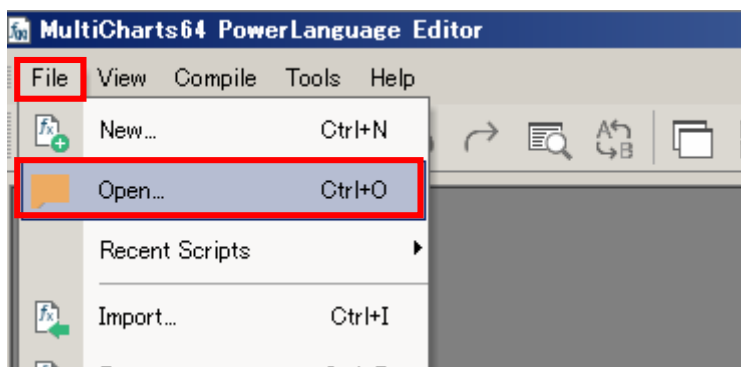


⑦下図のように、ストラテジーのインポートが開始され、数秒で完了します。

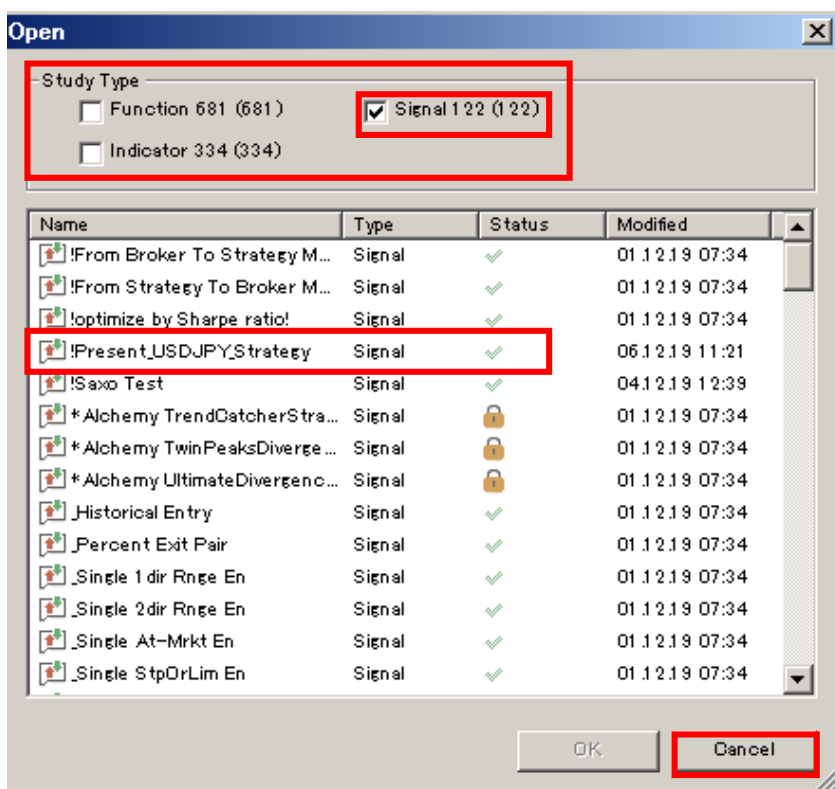


⑧ストラテジーが正しく取り込まれたかを、念のため確認してみましょう。

PowerLanguage Editorに戻り、File → Open をクリックします。



⑨Study Type 中の Signal を選択すると、PowerLanguage Editor 内に登録されているストラテジーが表示されます。その中に、「!Present_USDJPY_Strategy」があることが確認できます。Cancel をクリックすれば、元に戻ります。



(留意点) *****

ここまでご紹介した手順が、基本系で重要ですが、もう少し簡単にインポートを行うことが可能です。しかし、あくまでも、ここまでの基本設定の流れを理解して頂いたうえで利用することが重要です。そのうえで下記にて簡便法をご紹介します。

上記①のストラテジーのアイコンをダブルクリックします。



ストラテジーのアイコンをダブルクリックしますと、②から④までの流れは省略することができ、⑤以降の設定を行っていきます（それ以降は同じ流れになります）。

インポートしたストラテジーである「!Present_USDJPY_Strategy」をチャートに挿入する手順をご紹介します。

今回ご紹介しておりますサンプルストラテジーは、「!Present_USDJPY_Strategy」というドル円のデイトレードのストラテジーで、データ1として、5分足を、データ2として、日経225先物の5分足を同時に参照しています。

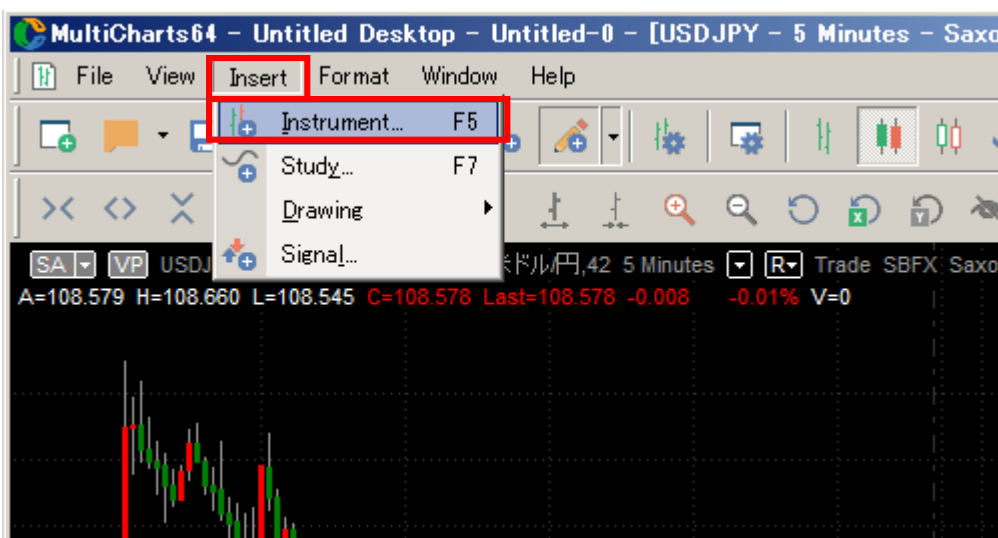
①ドル円の5分足を表示して下さい。チャートの設定手順は、**第2編 データフィード（データを読み込む）設定**、および、**第3編 リアルデータを含む過去数年のチャート表示**を参照して下さい。下図のようにドル円の5分足を表示して下さい。



②次に、日経 225 先物のデータ（データ 2）をドル円の 5 分足と同じチャート上に挿入する手順をご紹介します。

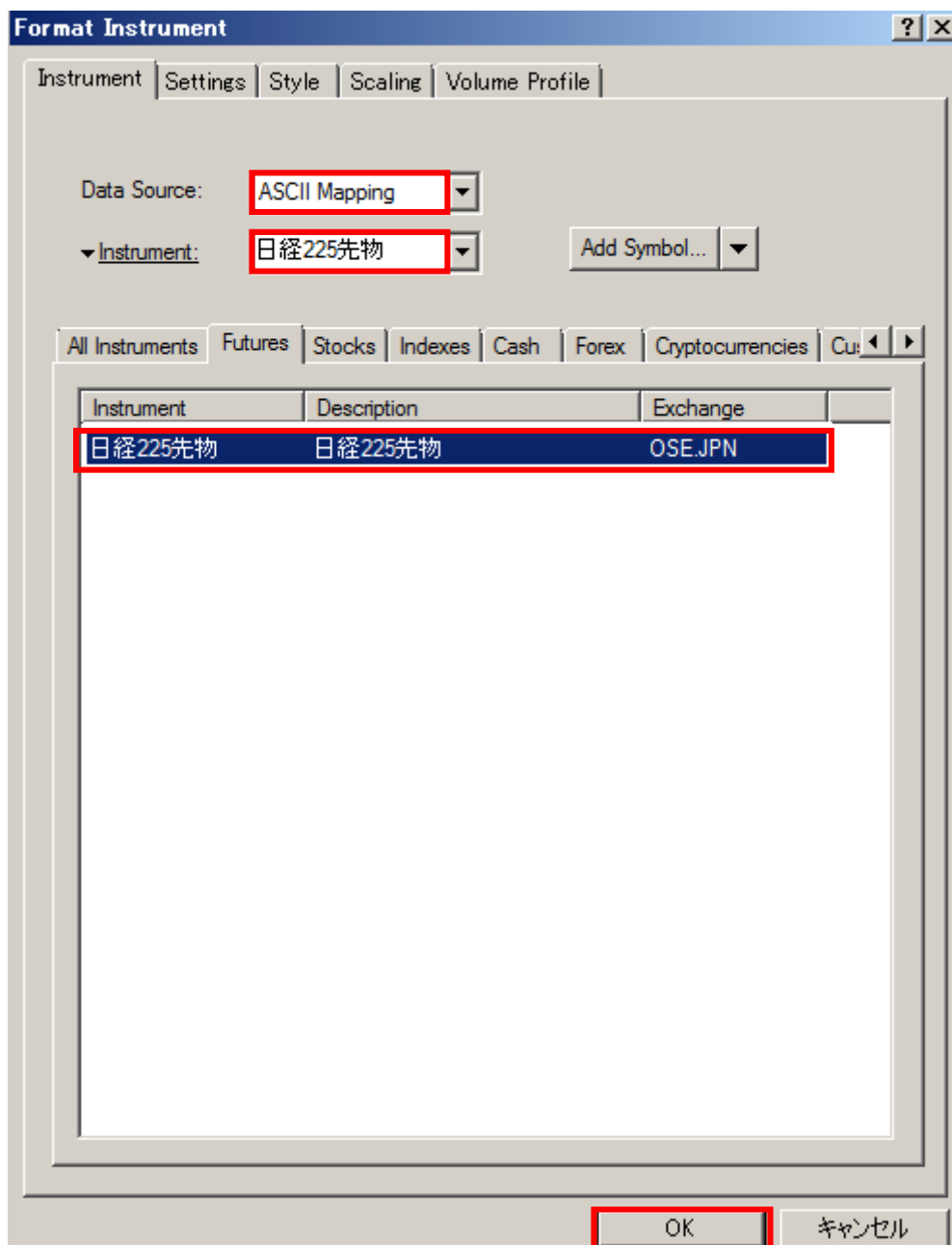
※日経 225 先物のデータは、バックテスト用に **第 6 編 外部データをチャートに取り込む方法**でご紹介したテキスト形式のデータを利用しています。よって、自動売買など実際の取引を行う際には、日経 225 先物（または、検証結果次第で、日経 225 の CFD や日経平均株価インデックス等でも代用可能）のライブ・データが必要になります。

（手順 1）ドル円のチャートを表示した状態で、Insert → Instrument をクリックします。



(手順 2) テキストデータの日経 225 先物を選択し、OK をクリックします。

※日経 225 先物のチャート設定に関する詳細は、**第 6 編 外部データをチャートに取り込む方法**の■例 2：日経 225 先物の 1 分足の外部データを表示する例の⑦を参照して下さい。

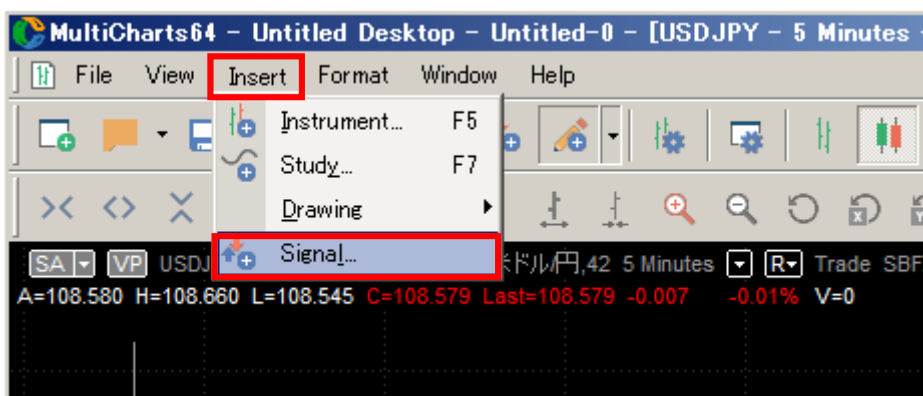


(手順3) ドル円の5分足の下に、日経225先物の5分足が表示できました。

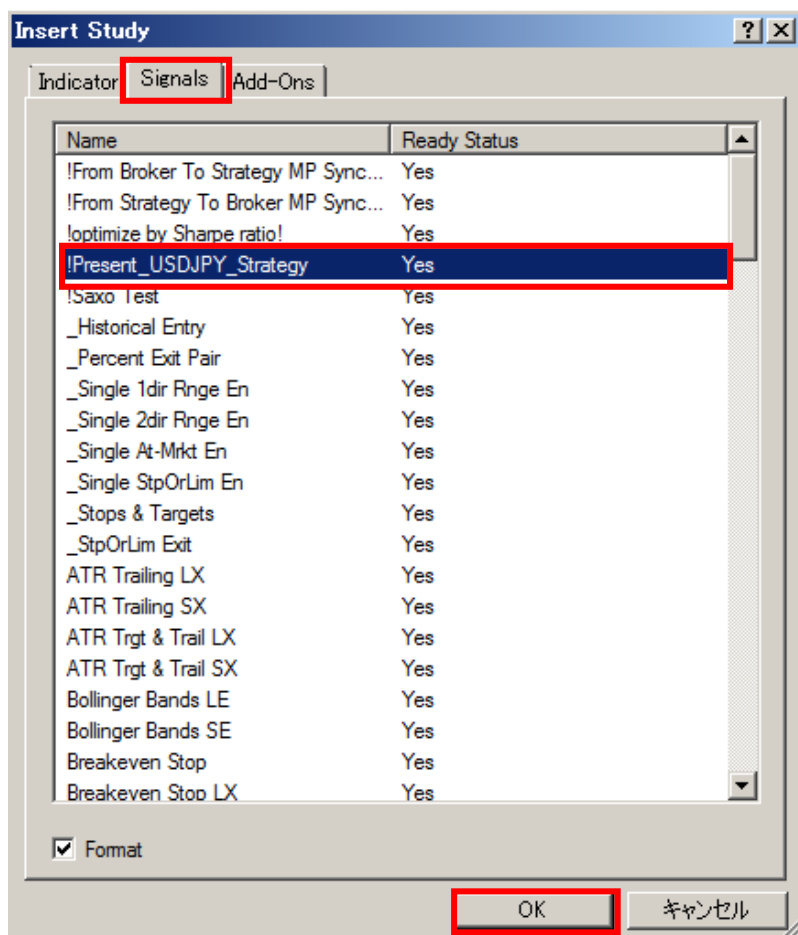


③上記の手順でチャート設定が終わったら、ストラテジー「!Present USDJPY Strategy」を挿入してみましょう。具体的な手順は、以下の通りです。

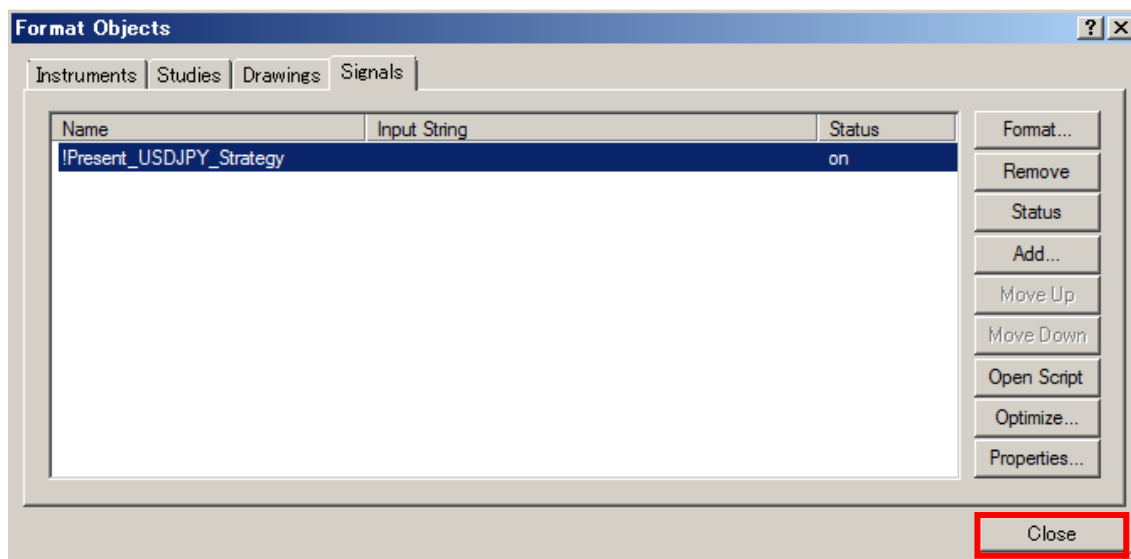
(手順1) マルチチャートの Insert → Signal をクリックします。



(手順 2) Insert Study ウィンドウ内の Signal タブ内にある「!Present USDJPY Strategy」を選択し、OK をクリックします。



(手順 3) 最後に Close をクリックします。



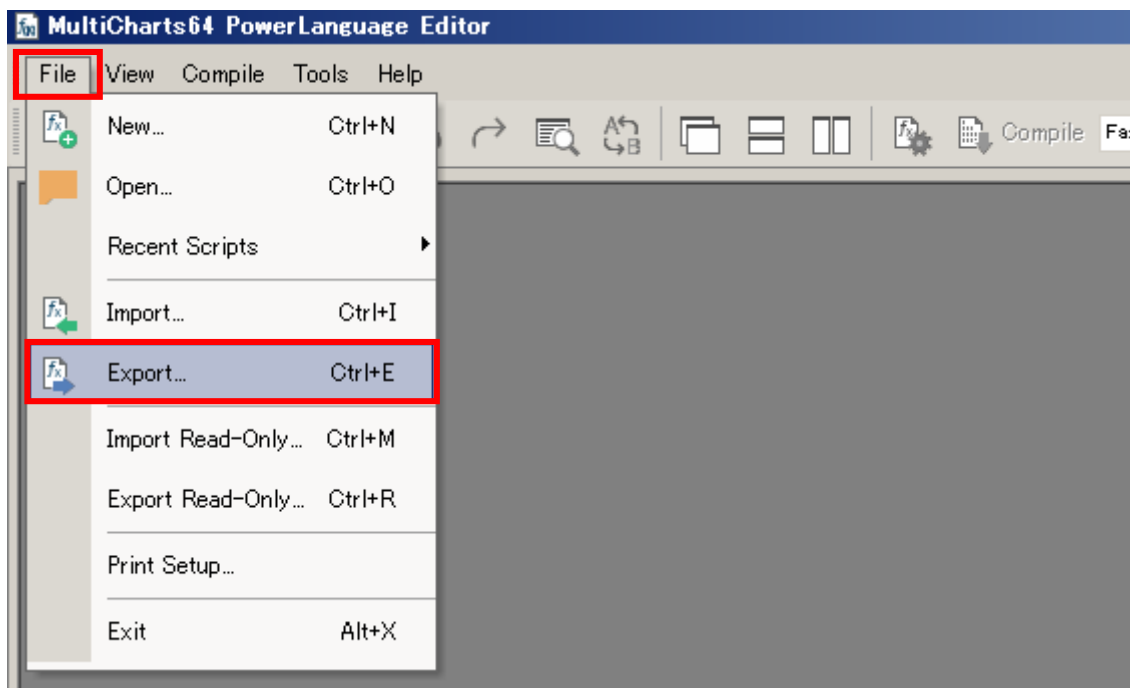
売買条件に合致したところに、シグナルが表示されます。



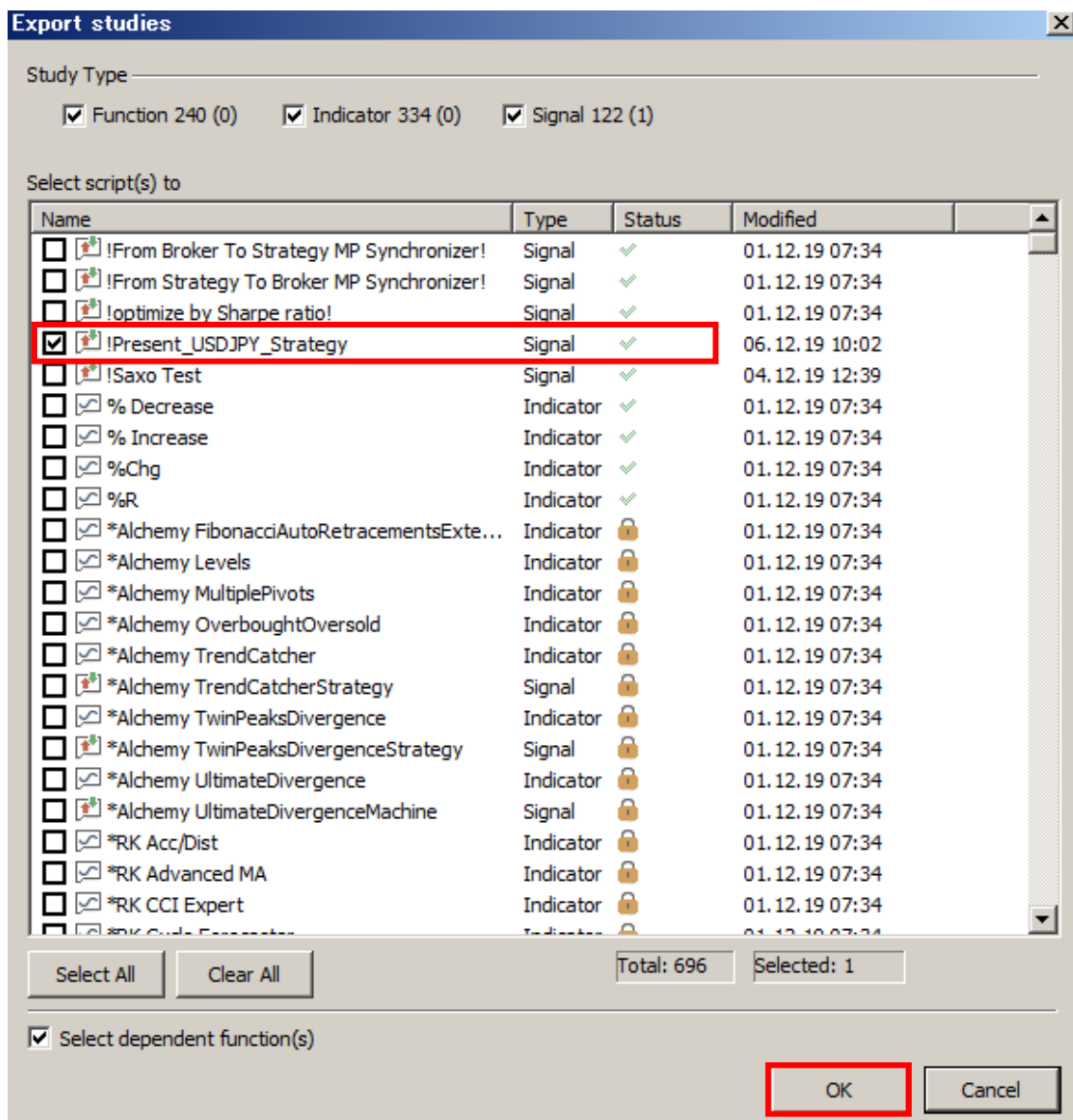
さて、最後に、上記でインポートしたストラテジー「!Present USDJPY Strategy」を、逆に外部エクスポートする手順をご紹介します。

※外部エクスポートを利用する場面は、例えば、他のパソコンのマルチチャートにシグナルやインジケータを移動させたい、他の人にストラテジーやインジケータを渡したい、等々の理由が考えられます。それでは、以下でエクスポートの手順をご紹介します。

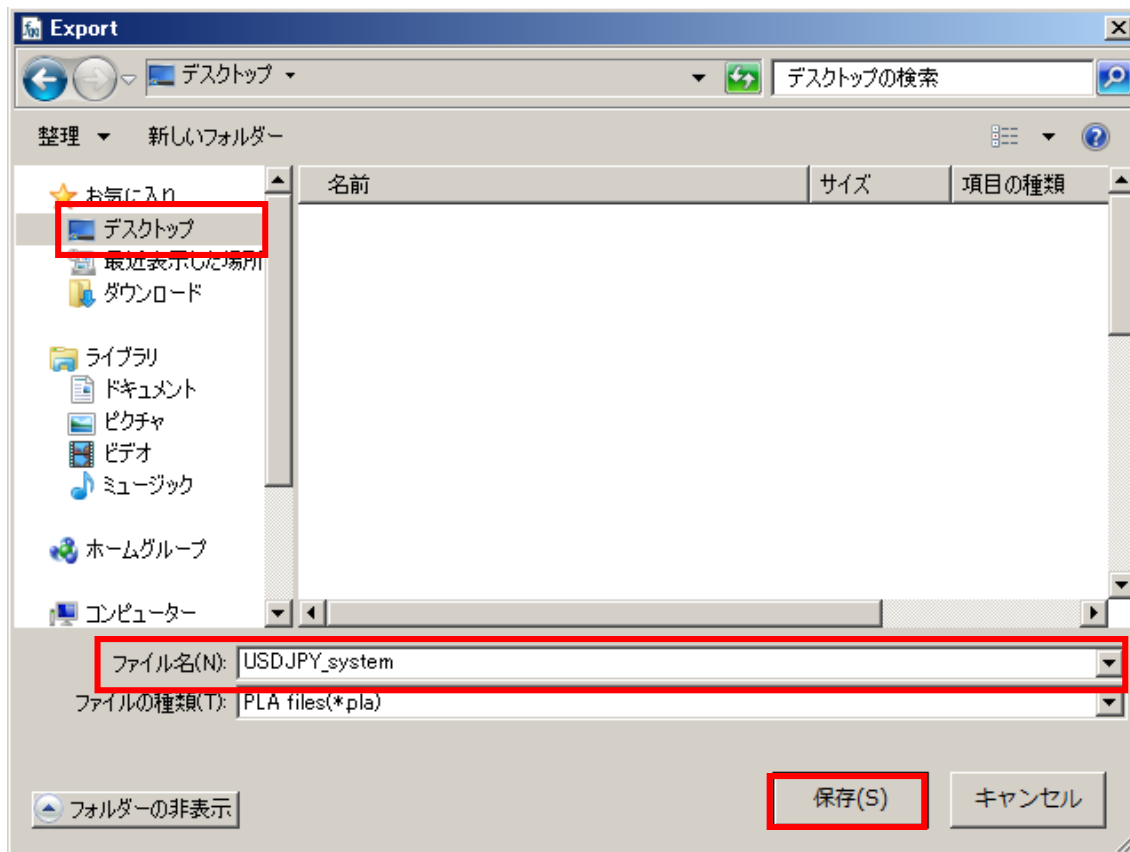
①PowerLanguage Editor を起動し、File → Export の順にクリックします。



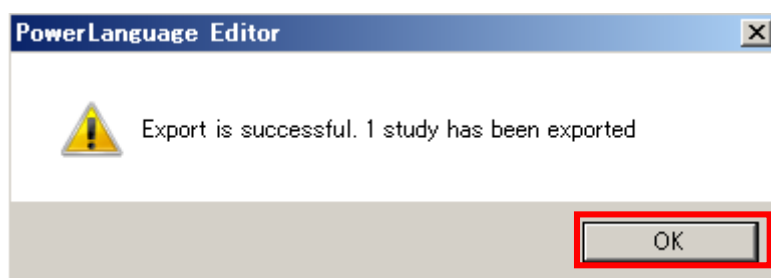
②外部エクスポートするスタディを選択し、チェックマークを付け、OK をクリックします。



③エクスポートする場所（ここではデスクトップにします）を指定し、ファイル名に名前を付け、保存をクリックします。※特に、シグナル名と同じ名前をつけなくても構いません。ここでは、USDJPY_system という名前を付けました。



④正しくエクスポートできたことが表示されます。最後に OK をクリックして下さい。



⑤デスクトップ上に、正しくエクスポートされました。



以上がエクスポートの手順になります。